

問題番号 AE (A) A

時間 50分 100点満点

第1回 特待入試問題

国語

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施時間は50分で、100点満点です。時間配分に注意して解答してください。
3. 解答は解答用紙にていねいに記入してください。
4. 解答用紙・問題用紙両方に、受験番号、座席番号、名前を記入してください。座席番号は、机に貼ってある番号のことです。
5. 試験中は携帯電話の電源を必ず切ってください。
6. 私語や物の貸し借りなどは認めていません。困ったことがある場合は、手をあげて先生に相談しその指示に従ってください。

受験番号 _____ 座席番号 _____

名 前 _____

聖学院中学校

一 次の問に答えなさい。

問一 次のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 日本ドクジの考え方
- ② 日本とアメリカをタイヒさせる
- ③ 前回のヒレイをわびる
- ④ 増えてゆくシシュツ
- ⑤ 惜しくも接戦にヤブレた日本代表
- ⑥ どこへ向かうかサダかでない
- ⑦ 社長としてのニンキをまっとうする
- ⑧ 体をソラして後ろを見る
- ⑨ 手先がキヨウな友達
- ⑩ 彼はジョウシキを備えている

〔二〕 次の文章を読み、後の問に答えなさい。(、や。なども一字とします)

左側の奥、窓のそばのベッドで、ヤンチャはあつちを向いて寝ていた。おばさんは、どこかへ出かけているみたいだ。手前の、入り口に近いほうのベッドで寝ているはずの人も今は留守だった。しわくちやのシーツの上に古ぼけた上着がぬぎすてである。

僕らはなんとなく息をひそめて、忍び足で病室へ入っていった。

ヤンチャは眠っていた。

「起こさないほうがいいのかな」

と、僕。

「でも、やつと会いに来たのにさ」

と、ハム太。

ノリオがそつと、むこう向きの頭に声をかけた。

「おい、ヤンチャ」

返事がない。頭のかつこうは確かにヤンチャなのに、ぴくりとも動かない。

ノリオよりも少し大きな声でハム太が言った。それでもヤンチャは動かない。

「なあ、これってヤンチャだよなあ？」

ハム太が心配そうにノリオの顔をうかがう。

「見りやわかるだろ」

ノリオがあごで指したベッドの頭のところには、ちゃんと「鈴木康明」と名札が差し込まれている。

僕は、ベッドの足もとをまわって、ヤンチャの顔の側へ行った。ヤンチャはいつものくせで、毛布をおでこの上までかぶって寝ていた。

僕は、耳のあたりまで口を近づけて言った。

「ヤンチャ、ねえ、起きてよ。みんな来てるんだよ」

ぴくん、と、毛布の中のヤンチャの体のはねて、それからゆっくり動きはじめた。

最初に中から出てきたのは、スリコギみたいな細い右腕みぎうでだった。こほっこほっと咳せきをしながら、その手が何度か空を切り、ようやく顔にかかっていた毛布をつかんでめくったとたん、僕はびっくりして思わず息をのみこんでしまった。

それは、ヤンチャではなかった。いや、もちろんヤンチャはヤンチャなだけけれど、僕らのよく知っているヤンチャではなかった。

僕らの知っているヤンチャは、イガグリ頭で、色が黒くて、（①）だつてことが一発でわかるようなキュツとつり上がった目をした、近所で知らない者のない腕白坊主わんぱくぼうずだった。ケンカは誰だれよりも強かったし、かけっこだつて誰よりも速かった。

でも、いま目の前にいるヤンチャは……胸元なんかまるで向こう側がすけて見えるくらい白くて、あちこちに赤い発疹ほっしんがぼつぼつ浮き出し、目は白つぽく濁にごっていた。やせ細った腕は今にもぼきんと折れそうで、ちよつと動くだけでもすぐ息が切れて苦しそうだ。

左腕に刺さった点滴てんてきのチューブを引っ張らないようにしながら、どうにか体を起こしてベッドの上に座ったヤンチャを見ても、みんな、しばらく何も言えないでいた。ハム太なんか半分逃げ腰にこしだ。

ずいぶん間があいてから、ヤンチャが、クスツと笑った。以前のような、真夏のお日さまみたいな笑顔じゃなくて、どちらかとい

うと昼間のお月さまみたいなの、青白い、弱々しい笑い方だった。

「そうビビんなよ、ハム太」ヤンチャは小さい声で言った。「うつる病気じゃないんだってさ」

「な……なんだよ、けつこう元氣そうじゃんか」ノリオが、なんとか笑おうとしながら言った。「心配して損したよ」

「ばあか」ヤンチャは頬をゆがめて、また咳をした。「②無理しないでいいよ。オレ、ひどい顔してるだろ？」

僕は黙っていた。

「食欲が、全然ないんだ」口を動かすのもしんどそうに、ヤンチャは言った。「前のオレだったら、考えられないよな。晩飯に、ハ

ンバーグが出ようが、カレーが出ようが、さっぱり食べる気がしないんだぜ」

ハム太ののどが、病院じゆうに響きわたるような音でゴクリと鳴った。

「オ、オレが来て代わりに食ってやろうか？」

「バカ、病人の食いもの奪ってどうすんだよ」

言いながら、ノリオがまたハム太をこづく。

僕は、そっと訊いてみた。

「何の病気か、わかったの？」

ヤンチャはため息をついた。

「先生は、最初、アレルギーの一種じゃないかって言ってたんだけど」

「けど？」

「うん。原因がさ。はっきりしないんだ。薬も効かない。のんでも、ちつとも楽にならないんだ」

「……………」

「あんなにあっちこっち検査しといて、やっぱりわかりませんってのはあんまりだよな」

そう言ったヤンチャの顔が一瞬泣きそうにゆがんだのを見て、

「痛い検査だったの？」

と僕は訊いたけれど、彼は口を結んでそれには答えなかった。

「このポツポツさ」と、ヤンチャは言った。「めちやくちや痒いのに、掻くと痛いんだ。発作が起きると咳が止まらなくなって、息

が苦しくて、体もだるくて、寝ても、背中からベッドにズブズブめり込みそうな感じがするんだ。底なし沼で溺れるみたいにな」

ヤンチャの病気が、思っていたより重そうだということは僕らにもわかった。

「大きい病院に移ったほうがいいんじゃないのかな」とノリオが言った。「隣町の病院とかなら、もつとはっきりしたことがわかるんじゃないのか？」

でも、ヤンチャは首を横に振った。

「あっちからもえらいお医者さんが来て調べてくれるんだけど、やっぱり原因はわからないんだ。これまでに無かった新しい病氣らしいや」

疲れてきたらしく、ヤンチャは座っているのをあきらめてズルズルとまた横になってしまった。気まずい沈黙が僕らの間を流れる。

「えっと……じゃあオレたち、そろそろ帰るからさ」

ノリオが気をきかせて言うと、苦しそうな咳がそれに答えた。

「また来るからね」

と、僕も言った。

「今度は、晩飯の時に来ようかな」

ハム太が言うと、ヤンチャはようやくおさまった咳のかわりに、③乾いたクスクス笑いをもらった。

「いいぜ。でもこのごろは、出るものといったらおかゆばかりだけだな」

ランドセルを背負いなおして、じゃあね、と手をふる。ノリオとハム太の後に続いて病室を出ようとした時、

「ワタル……」

ふり向くと、ヤンチャは枕の上で口を半開きにして、僕の顔を見つめていた。何を言うつもりだったのか、ヤンチャ自身もわからなくて困っているみたいに見えた。

「明日、また来るよ」

と僕は言った。

ヤンチャは、黙^{だま}ってうなずいた。

うちに帰る間じゅう、僕らはほとんど口をきかなかった。

土手の上を歩いていく間に、夕日が僕らの背丈^{せたい}と同じくらいのところまで沈^{しず}んできた。

④見おろすと、川も、ススキの原っぱも、遠くの橋も、そこを渡っていく車も、ありとあらゆるものが真っ赤に染まっていた。世
界中が血を浴びたみたいだった。

半ズボンの裾から、すきま風がびゅうびゅう通って背中へ抜けていく。この帰り道をいつでも一緒に歩いていたヤンチャがい
なんて、なんだかとても変、というか理屈に合わない感じがした。奥歯が一本抜けてしまったようで、どうにもうまく力が入ら
ないのだ。

土手の道を町のほうへおり、もうすぐ家、という頃になって、僕はふとつぶやいた。

「タイムマシンがあればいいのにな」

頭の中に浮かんでいたのは、『ドラえもん』の一場面だった。

「なんだよ、いきなり」

とハム太。

「だってさ。タイムマシンさえあれば、十年でも二十年でも先の世界へ行ってこられるわけだろ？」考え考え、僕は言った。「それ
ぐらい先の世界ならきつと、今よりずっと進歩してるんじゃないかと思つてさ。ヤンチャの病気なんか、ただの風邪みたいに簡単に
治せるようになるかもしれないじゃないか」

「バツカじゃねえの」見下したようにハム太は言った。「そんな先の世界でヤンチャの病気が治せたって意味ないじゃん。ヤンチャ
が病気になってるのは今なんだぜ、バーカ」

そのとたん。

「バカはお前だ」

ノリオがまたしてもハム太の頭をこづいた。

「ワタルが言っているのはなあ、もしタイムマシンがあつたら、未来の世界からヤンチャを治せる医者連れてくることだってできるし、反対にヤンチャを未来へ連れて行って治してもらうことだってできるってことなんだよ。そうだろ、ワタル」

僕はうなずいた。さすがはノリオだ。

「だあけどさあ」ハム太が頭をさすりながら言った。「ジッサイモンダイとして、タイムマシンなんかありっこないじゃないかよ。そんなのが本当にあつたら、病気で死ぬ人なんて今ごろ一人もいないはずだろ」

たしかにその通りだった。実際問題として、今のこの世界にタイムマシンなんてものは存在しない。いつもの僕の〈クウソウヘキ〉は、現実から逃げ出すには好都合だけれど、現実に立ち向かうためにはまったく役に立たないのだ。

僕は、肩^{かた}を落として別れた。

⑤ 0点のテストを返されて家に帰る時より、はるかに気が重かった。

(村山由佳 『約束』)

問一 (①) に入るもつともふさわしいことばを選びなさい。

ア、負けず嫌い^{まじ}

イ、気分屋

ウ、がんこもの

エ、意地悪

問二——②について、「ヤンチャ」は何に對して「無理しないでいい」と言っていますか。もつともふさわしいものを選びなさい。

ア、三人が、自分の病氣の辛さを理解しようと話を聞いてくれることに對して。

イ、三人が、自分を励まそうと一生懸命、前向きなことはをかけてくれることに對して。

ウ、三人が、顔をそろえて病院までお見舞いに来てくれることに對して。

エ、三人が、変わり果てた自分の姿に驚いていることをお隠すことに對して。

問三——③について、ヤンチャの「乾いたクスクス笑い」を別の例えで表している部分を五字以上十字以内でぬき出しなさい。

問四 — ④について、この風景描写はどのような役割を果たしていますか。もつともふさわしいものを選びなさい。

ア、「真つ赤に染まって」、「血を浴びたみたい」という夕日の例えが、「ヤンチャ」を救う手段を持たない「僕」の怒りを表している。

イ、「真つ赤に染まって」、「血を浴びたみたい」という夕日の例えが、「ヤンチャ」の生涯しょうがいに重大な危機がせまっていることを表している。

ウ、「真つ赤に染まって」、「血を浴びたみたい」という夕日の例えが、なぜ自分だけがこのような目にあうのかという「ヤンチャ」の怒りを表している。

エ、「真つ赤に染まって」、「血を浴びたみたい」という夕日の例えが、病気に正面から立ち向かおうとする「ヤンチャ」の強さを表している。

問五 — ⑤の理由を「0点のテスト」と「ヤンチャの病気」ということばを使って六十字以内で説明しなさい。

問六 次の各文は、病室を訪れた三人の特徴を比較したものです。「ワタル」「ハム太」「ノリオ」の特徴にあたるものをそれぞれ答えなさい。

- ア、他の二人に比べ、発言や発想に、まだ幼さが残っている。
- イ、他の二人に比べ、周りの状況を考える大人っぽさがある。
- ウ、他の二人に比べ、ヤンチャとの距離が一層近い印象がある。
- エ、他の二人に比べ、楽天的で物事を前向きに考えるとところがある。

〔三〕 次の文章を読み、後の問に答えなさい。なお、出題の都合で改めた所があります。（、や。なども一字とします）

日本の学校には入学式や卒業式はつきものであったし、今もそうである。しかし、視野を外国に^{ひろ}げてみると、日本のような入学式を行わない学校はいくらでもある。いわゆる帰国子女の体験を聞いても欧米では一般に新学期は秋からであり、例えばアメリカでは九月の第一水曜日からはじまるのが慣例になっている、という。一年生になった子どもたちは教室に集まって担任の教師と対面し、その日から授業がはじまる。ドイツでも同じようだ。たとえば『世界の学校』の著者、伊藤正則はミュンヘンのある小学校一年生の「最初の授業日」の模様を次のように紹介している。

「子どもたちは、色とりどりの服を着（制服はない）、横長のランドセルを背負って、親につれられて学校に集まってくる。手には、身にあまるほどの大きなシュールテューテと呼ばれる細長い円錐形の、三角帽子のようなものをかかえている。なかには、お菓子や文房具が入っており、さきをリボンで結んである。学校という場で、きびしい生活をはじめ子どもたちに、せめてお菓子でもという親心から、この風習は生まれたという。

その小学校には、めずらしいことに、簡単な入学式があった。

講堂の壇上には花が飾られ、上級生たちが歌を歌ったり、笛を吹いたり、短い劇を演じたりして、新入生を歓迎した。

そのあと、校長先生が短いお祝いのあいさつをされた。この簡単な入学『式』は、三〇分ほどだったろうか。」

学校が子どものために存在するとすれば、①このようなアメリカやドイツの事例はごく「自然」であるといえよう。日本の学校の入学式のほうが不自然なのだ。それは子どもたちや親に、学校とは家庭とちがうところだ、ということをも②いやでも応でもわからせる「儀式」として考えられてきたのだ。

いったい、なぜ日本の学校は子どもに対してかくも威圧的いあつてきだったのだろうか。それはやはり学校が帯びた歴史的 성격による、といわねばなるまい。つまり、日本の学校は子どものためではなく、国家のためにつくられたからである。日本の学校の歴史をさかのぼると、一八九一（明治二四）年の「祝日大祭日儀式規定」というものにつきあたる。それは前年に発布された「教育ニ関スル勅語」の精神を徹底させるために天皇・皇后の「御真影」に拝礼し、校長が白手袋をつけて勅語を奉読し、教員、子どもが頭をたれて謹聴するという形式の行事だった。卒業式もそのことを示す行事にほかならなかった。

卒業式Ⅱ「卒業証書授与式」という名称にしても日本の学校の歴史的な性格を端的に示すものであった。国家的要請としての教育Ⅱ「業」をおえた、という証明書を「授け与える」儀式なのだから国家の代理人としての校長は「授け与えられる」側の子どもを自分の至近距離まで呼び寄せて、恭しく業を修めた、という証書を読みあげてそれを「授与」してきた。その情景は、たとえばオリンピックなどの表彰式とは正反対のものだった。周知のように、オリンピックでは入賞し、表彰される選手が壇上にあがる。表彰する立場の人間は下から選手の首にメダルをかけて敢闘をたたえる。観衆も選手に対して惜しめない拍手をおくる。③それはまさしく「人間的な自然」であり、感動的である。そのようなことを想うと、日本の学校の卒業式はいかにも頑固に守旧的であつたし、今もなお権威主義的である。「君が代」を「国歌」として歌わせるためにその伴奏をする教師に「業務命令」を出し、起立・斉唱をしない教師を処罰するという最近の日本で行われている事実は、欧米人には「信じられない」だろう。

アメリカの学校では日本の卒業の日のことを「コメントメント」という。それは「業をおえる」という意味ではなく、「出発」とか「旅立ち」、「始まり」ということなのである。たしかに、「卒業」は「一つの仕事に区切りをつけ、新しい未来に向けて出発するこ

*御真影…天皇・皇后の写真のこと

*奉読…丁寧に礼儀正しく読むこと

*謹聴…丁寧に礼儀正しく聞くこと

*恭しい…丁寧に礼儀正しいこと

「となのだから、「コメンズメント」とはまことに適切なことばである。そして、アメリカの学校ではそのことにふさわしい多彩な行事が学校の個性を生かして催される。前に掲げた伊藤正則著『世界の学校』には次のような行事の模様が紹介されている。

「中学校では、卒業ダンスパーティがひらかれる。校区により違いはあるが、八、九年级でミドルスクールは終わりである。だが、卒業式などない。そのかわり、というわけではないが、卒業ダンスパーティが盛大におこなわれる。

この日初めて、男生徒たちは、一人前の男性として、女生徒をパートナーとして申し込み、正式のダンスパーティに出席するのである。少々早いけれども、これでおとなの仲間入りをするわけで、同時に、おとなとしての自覚も求められるのだ。それだけに、ミドルスクール卒業記念ダンスパーティは、意義ある行事なのだ。」

伊藤は「アメリカの学校行事で、小・中・高校を通じていえることは、ユーモアがあり、子どもたちがリラックスして、楽しんでいることだ。」という。それに反して「日本の教師は、行事に見栄えと出来栄えのよさを求め、完成品にしようとする傾向が強い。」
「とくに現代の入学式、卒業式は『儀式』にこだわり④画一化している。思い切って見直し、楽しいものにしていくべきだ。」と提言している。

たしかに、日本の学校には国家が決めた「儀式」はあった。しかし、⑤子どもたちが自治的に協同で創り出す「フェスティバル（祭り）がなく、あったとしても⑥はなはだ貧弱な内容のものであった。

（中野光 『学校改革の史的原像』）

問一 ― ②と④と⑥のことばの使い方としてふさわしくないものを選びなさい。

② 「いやでも応でも」

ア、P T A役員をいやでも応でも引き受けてもらわねばならない。

イ、どんなに抵抗されても今回だけはいやでも応でも承知しょうちさせるつもりです。

ウ、彼が参加したノーベル賞の受賞晩餐会ばんさんかいは自然といやでも応でも盛り上がった。

エ、たとえ息子が駄々だだをこねても私はおもちや売り場からいやでも応でも連れて行く。

④ 「画一化」

ア、画一化された考え方では個性的な作品を生み出すことはできないだろう。

イ、多くの収益を出すために画一化されたサービスを多様なものへと変えていく。

ウ、情報があふれているのにもかかわらず、若者の考え方は画一化が進んでいる。

エ、絵を描くときの注意点は、上下左右に筆を動かす方向を画一化することである。

⑥「はなはだ」

ア、今回のできごとは、はなはだ^{いかん}遺憾なことに思います。

イ、先日のお約束の件は、はなはだ承知いたしております。

ウ、はなはだ簡単なものですが、^{あいさつ}挨拶に代えさせていただきます。

エ、はなはだ勝手なことではございますが、よろしく願います。

問二——①と③に「自然」ということばがあります。筆者はどのようにすることが「自然」と考えていますか。次の文の（ ）

に入ることばとしてもつともふさわしいものを選びなさい。

欧米の入学式やオリンピックなどの表彰式では、その場の（ ）を重視して行うことが

「自然」であると考えている。

ア、権威

イ、主役

ウ、^{ふんいき}雰囲気

エ、参加者全員

問三 ……について、次のA～Cの理由で発せられることばとしてふさわしいものを選びなさい。

A 卒業は一つの仕事に区切りをつけるという意味を持つから。

B 卒業は新しい未来に向けて出発するという意味を持つから。

C 卒業はおとなの仲間入りをし、その自覚が求められるから。

ア、「卒業おめでとう。さよならは言わないよ」

イ、「卒業おめでとう。高校生活が楽しみだね」

ウ、「卒業おめでとう。これからは責任が伴うぞ」

エ、「卒業おめでとう。ここまでよくがんばったね」

問四 日本の入学式や卒業式は歴史的な性格を持っていました。運動会も歴史的には軍事訓練の性格を持っていましたが、その運動会

に――⑤の性格を加えたとしたら、どのような種目を運動会に取り入れたらよいと考えますか。種目名とその内容を説明しなさい。

問五 この文章の説明の仕方についてふさわしくないものを選びなさい。

ア、他者の考えや調べたことを引用して自分の考えを補っている。

イ、学校行事について欧米と対比しながら日本の特徴を説明している。

ウ、欧米寄りの立場で日本の学校制度の問題点を指摘し^{してき}解決策を展開している。

エ、日本の儀式の中に存在する意識されていない部分を歴史的な観点から説明している。

